

# 関東学院大学・工学部における SNSとe-Learningを融合した入学前準備教育

2008年10月22日  
関東学院大学 工学部庶務課  
課長 千葉敏雄

Kanto Gakuin University (KGU) in 2008

## 関東学院大学紹介

- 所在地：【金沢八景キャンパス】神奈川県横浜市金沢区六浦東1-50-1  
【金沢文庫キャンパス】横浜市金沢区釜利谷南3-22-1  
【小田原キャンパス】小田原市荻窪1162-2
- 学長：松井 和則
- 設立：1884年(明治17年)横浜山手に横浜バプテスト神学校を創立
- 学部：経済学部/人間環境学部/**工学部**/文学部/法学部
- 学生数：約12,000人
- ピックス：「横浜バプテスト神学校」設立以来、  
2009年10月6日で**125**年。



## 1-1. 背景

- ◆ 対象者: 推薦入学合格者・AO入試合格者
- ◆ 目的: 工学部教育の基本的知識を再確認  
大学の講義にスムーズに入れるよう手助けをする
- ◆ 実施状況:
  - ・2002年度入学生から紙面教材の添削を中心とした通信教育方式で開始。実施教科は「数学」1教科。
  - ・2007年度入学生からe-Learningによる**入学前準備教育**を導入。実施教科は「数学」「英語」「物理」の3教科。

## 1-2. e-Learningの採用理由

- ◆ 学習の進捗状況がリアルタイムに確認できる
- ◆ 個人毎の学習結果を途中経過を含め、分析可能
- ◆ 通信教育と同等のコストで複数科目学習可能
- ◆ 入学後必須のため入学前にパソコンに馴染ませる

### 【サーバ環境の検討】

イントラネットもしくはASP(web+アプリサーバ)で実施する  
選択を検討(前年度から継続)

- ・大学で環境(サーバを独自でたてる)を整える必要がなく、  
トラブルの心配がない
- ・セキュリティーも実証あり
- ・コストについても非常に効率が良い

ASP(webサーバ)採用、業者は実績のあるF社を採用

# 1-3. e-Learning2年目の改善点



前年度の「受講後アンケート」で、生徒から好評ではあったが改善点もあった。その対処を行い、2008年度もe-Learningで実施することを決定。

## 改善したい項目

- パソコンの起動からログインに関する基本的操作の質問が多かった
- 解説に講義映像を使用したがるが、PCやインターネット環境の問題で、映像が正常に表示されないなどの理由から、スムーズに学習できない生徒が多かった
- 夜間に学習する生徒が多く、夜間でも生徒の疑問を解決できる仕組みがほしい
- 教材に本学の歴史や教育方針を組み込みたい

## 改善策

- 12月実施の説明会でパソコン教室を使用し対象者へ実践させた
- 講義映像を使用せず、Flashベースの教材に変更
- 夜間の問題解決のための手段としてSNSのコミュニティ機能を提供
- 英語教材は本学教員作成のe-Learning教材を使用

# 1-4. 実施教科・時期・実施方法



- 科目：英語・数学の2教科（2007年度は3教科）

英語は本学作成の教材と市販教材をブレンド使用

- 実施時期

12月15日～4月30日

※4月は入学後に、大学のパソコンで指導と学習が行えるように設定

- 実施に向けて

①12月にDM発送

②DM発送時にPC環境のアンケート調査

③出身校の校長宛に協力依頼文書の用意

⇒ 自宅にパソコン環境がない生徒対策

④説明会の実施

・趣旨説明と大学の専門講義で必要な各教科のスキルの説明(各30分)

・ID配布とe-Learning操作実習(30分)

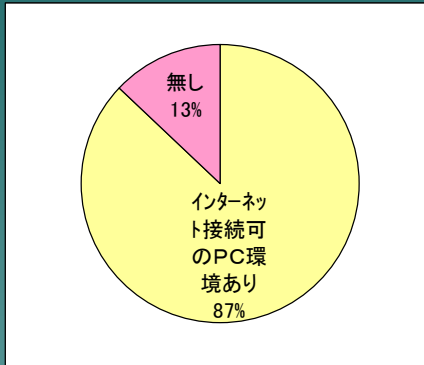
・アンケート結果から自宅にPC環境がない生徒と個別に対応を協議

・SNSの趣旨・機能・ネットリテラシの説明 ⇒ 荒らさないための対策

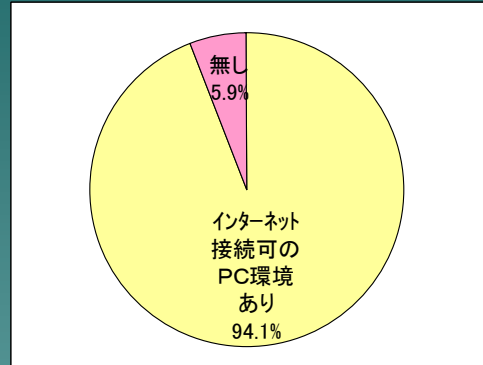
# 1-5. PC環境調査結果とその対応

## ◆ 対象者に、12月のDMでPC環境のアンケート調査を実施

前年度:PC環境あり(87%)



本年度:PC環境あり(94.1%)



- ◆ 本年度も**家庭PC環境は問題ない**と判断
- ◆ 説明会でパソコン環境がない生徒と個別に対応を協議  
⇒ ① **出身校・本学・公共施設**などのPC利用を指導  
② ①がNGの生徒(1%)に紙教材を配布(前年度は1.4%)

# 1-6. 学習支援と成績評価

## 学習支援

### ■ Q/A対応

パソコンが不得意な生徒や学習に行き詰った生徒をフォローするために、電話・メールによるQA対応を実施し、スムーズな学習を支援。

### ■ 学習のフォローアップ

学習の進捗が伸びない学生に対し、定期的に激励メールを送信  
1月末の時点で学習を開始していない学生へ催促DMを発送  
受講前テスト、修了テストを実施していない生徒に催促メール送信

### ■ SNSコミュニティ機能の提供

学習上の疑問点や問題点を共有し、課題解決の場としてコミュニティを提供

## 成績評価

### ■ 「受講後アンケート」の実施

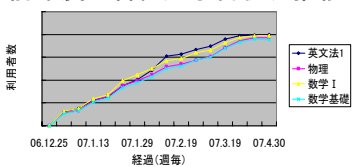
「受講後アンケート」から生徒の評価や意見を収集・分析し、来年度以降の参考とする

### ■ 生徒全員の学習履歴とテスト結果を集計・分析・報告書の作成

# 2-1. 実施状況

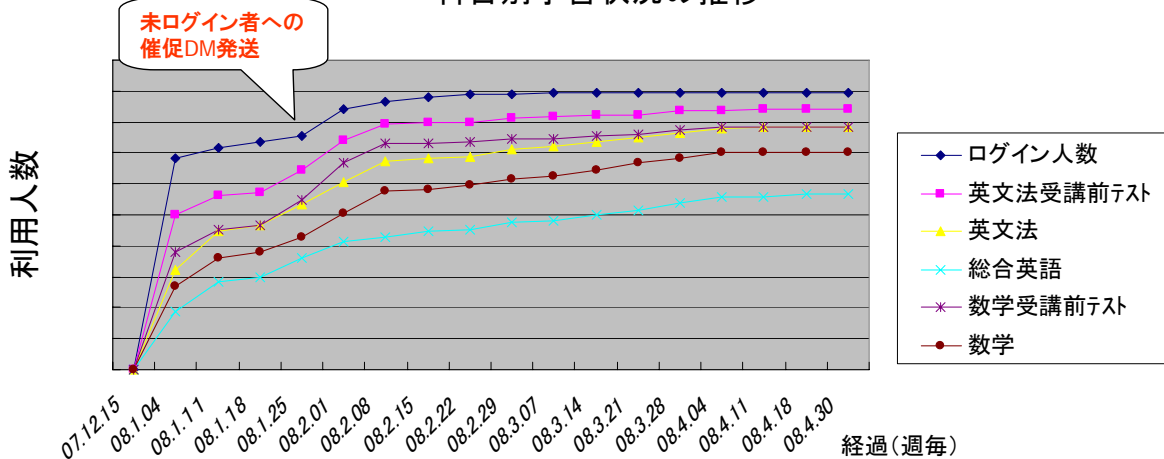
「受講前テスト」の効果か、1/4時点で72.4%と前年度(約20%)に比べ、学習の立ち上がりが早かった。

前年度の科目別学習状況推移

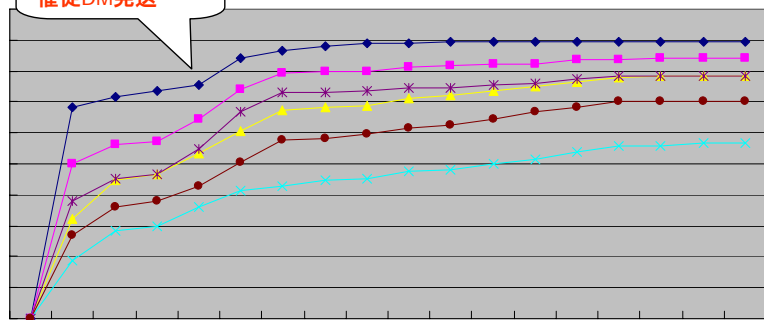


最終的には**96.9%**(紙の時85%、前年度93.1%)の生徒がログインし学習を行った。4月以降も復習や未学習の項目の学習を行っている。

科目別学習状況の推移



未ログイン者への催促DM発送

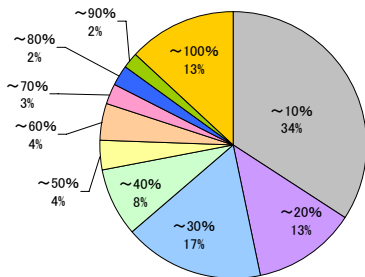


- ◆ ログイン人数
- 英文法受講前テスト
- ▲ 英文法
- × 総合英語
- ＊ 数学受講前テスト
- 数学

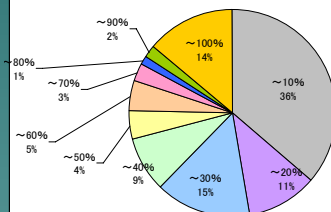
# 2-2. 科目別進捗率の分布

96.9%の生徒が学習を行っているが、学習進捗はバラつきがある。次年度は進捗率UPの対策の検討が必要。

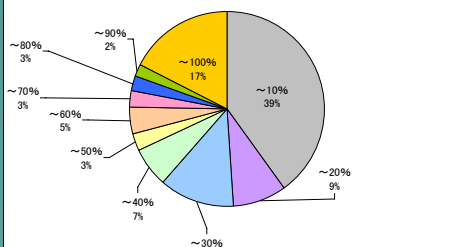
進捗率の分布<総合>



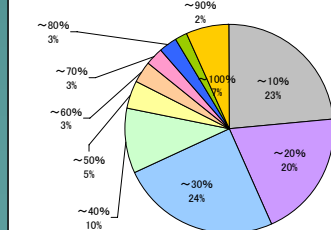
進捗率の分布<数学>



進捗率の分布<英文法>



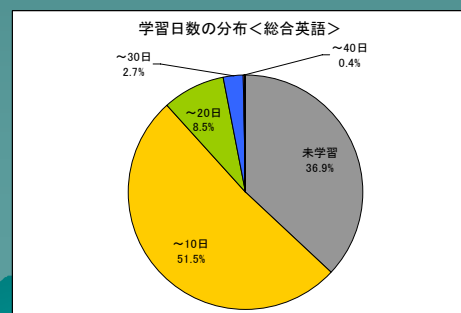
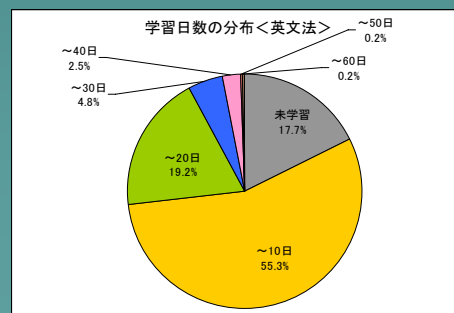
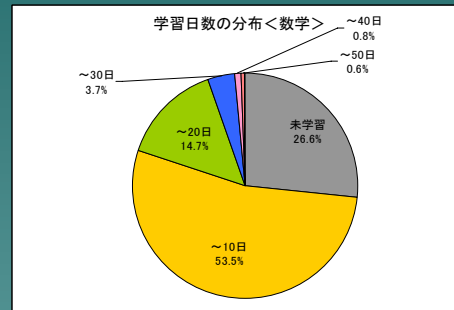
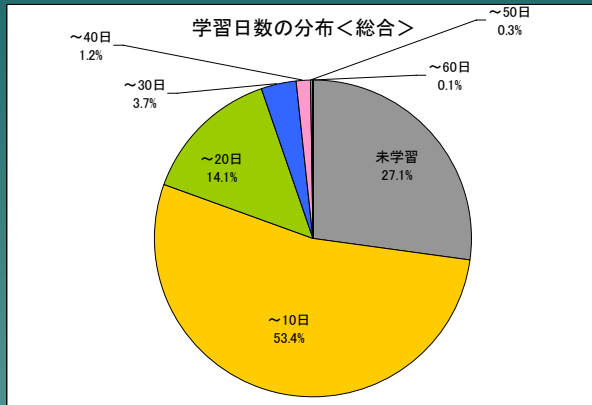
進捗率の分布<総合英語>





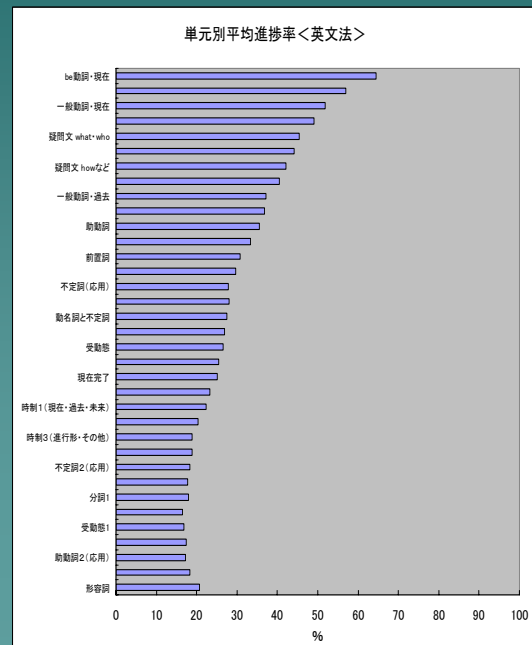
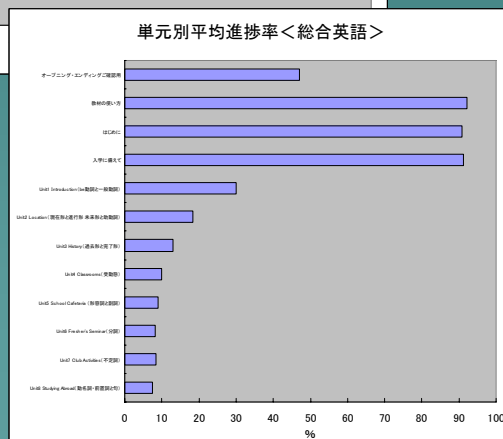
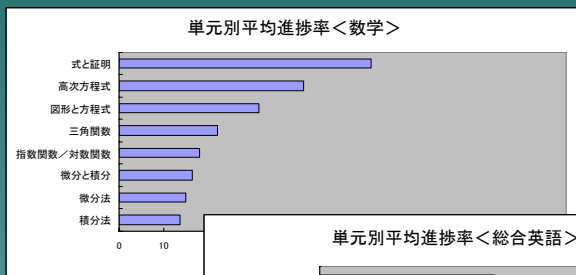
## 2-3. 学習日数の分布

どの科目も50%以上の生徒が10日～20日学習していることがわかる。



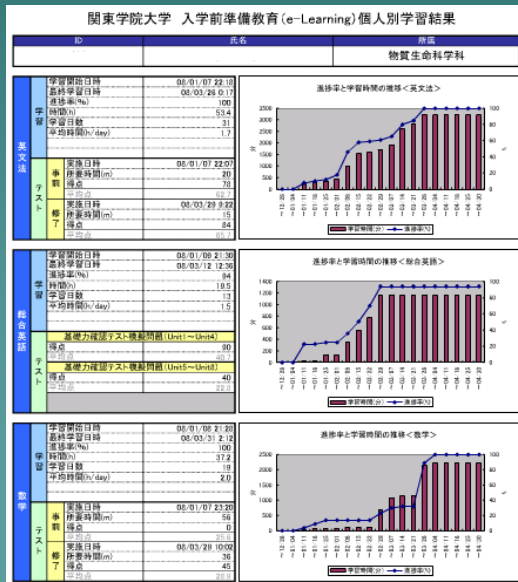
## 2-4. 単元別平均進捗率

各科目とも、最初から最後の項目までが逆三角形に近い形となっている。これは、時間が足りないなどの理由により、最後まで到達できなかった生徒がいるためである。特に学習させたい項目を目次の上部に配置するなど、**目次の組み方を工夫**することで、より効率的な学習を狙うことができる。



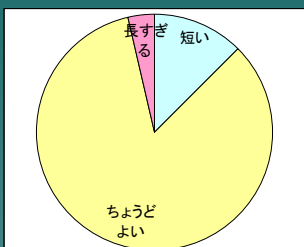
# 2-5. 個人成績と学習タイプ

個人成績表には科目毎の学習日数および時間、進捗の推移、単元毎の状況、修了テストの得点が記載されており、約5ヶ月間の学習状況がわかる。この情報から学習タイプ(一夜漬けタイプやコツコツタイプ等)を判断している。学習タイプは急激に変化するものではないので、入学後の個人指導や離学者対策に有効と考えている。これはe-Learningならではの成果である。

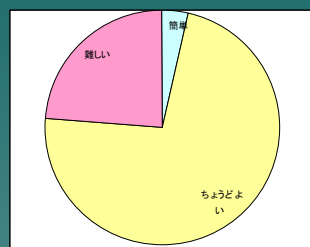


# 2-6. 受講後アンケートの分析結果

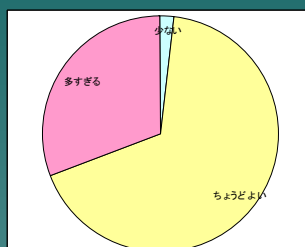
1. 学習期間



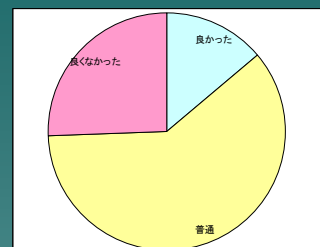
2. 内容



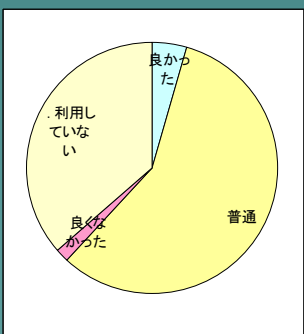
3. 教材のボリューム



4. パソコンによる学習



5. サポートの対応



6. 学生の意見・要望など

- ・授業が始まるまでに、予習と予備知識が養えたので、気持ち的にも余裕を持つことが出来ました。
- ・パソコンだと操作が楽でよかった。
- ・自宅で無理なく学習が出来たので良かったです。
- ・家に居ながら目標を立てて好きな時間に勉強ができたから、ふと時間が余ったときにやっていました。
- ・パソコンがあればどこでもできる場所。
- ・パソコンの調子が悪い時に使えない。
- ・基礎の確認とかわからなかったところもわかったのととてもよかった。

## 2-7. 実施の成果

- ◆ 4月オリエンテーション期間にプレイスメントテスト実施
  - ・教科(英語・数学・物理)
  - ・昨年より平均点が上昇した。
  - ・対象者のe-Learning学習で点数が上がったと判断
- ◆ PC操作の慣れ
  - ・WEB履修登録を4月初めに実施
  - ・操作説明会の参加者も少なく質問もほとんどない
  - ・スムーズに履修登録ができた
  - ・対象者がPCを使用する際、違和感ない操作

## 2-8. 入学後4月以降のフォロー体制

- ◆ プレイスメントテスト結果で一定の点数に達していない学生のフォローアップ
- ◆ 共通科目の卒業要件に算入する補正授業科目「英語基礎」「数学基礎」を履修させる
- ◆ 授業の課題等も英語の一部でe-Learningを採用
- ◆ 対面教育とe-Learningの両方で対応  
ブレンドラーニングを実施し手厚いフォローを行う
- ◆ **学生支援室**で学習支援の一貫高校教員OBのチューター制度を設けている



## 3-1. SNSの導入趣旨

- ◆ 夜間に学習を行う生徒が以外に多い
  - ⇒ 発生した疑問や問題を主体的に解決できる場を提供し、学習を止めない環境作り。モチベーションの維持。
- ◆ Q&Aを共有することで、対応件数を削減したい
- ◆ 昨年度のQ&Aで「大学生活に不安がある」の質問が多かった
  - ⇒ 大学関係者が回答することで不安が解消できないか
  - ⇒ 不安を解消するのは「友達づくり」?
- ◆ 学習サポートを含めフォローアップの場として利用



SNS (Social Network Service)

## 3-2. SNSの問題点

- ◆ 高校生が自発的にUpするか
- ◆ 簡単に利用してもらうための工夫?
- ◆ 誹謗中傷の処理方法をどうするか
- ◆ 炎上(荒れる・崩壊)をどう防ぐか

## 3-3. SNS 解決方法1

### 対象者が自発的にUpするか



- ・コミュニティを目的別に細分化し発言しやすくした
- ・コミュニティ毎に管理者(大学関係者)を配置  
工学部長・学科教員・英語数学教員・学生課・学生支援室・  
教務課・工学部庶務課(リーダー)など
- ・生徒が質問をUP後、大学側の回答は迅速  
かつ丁寧な対応

## SNS 解決方法2

### 簡単に利用してもらうための工夫



- ・入学前準備教育ログイン後のトップページのお知らせで利用を勧誘
- ・親しみやすいネーミング
- ・わかりやすいチラシやマニュアルを目のつくところに配置
- ・入学前準備教育の説明会で説明およびデモ
- ・携帯電話からでも利用可能
- ・e-Learningと同じID/PWで相互利用可能(シングルサインオン)

## 生徒に配布したチラシ(例)

「入学前教育」サイトでは、学習する以外に「友達をつくる」こともできます。  
キャンパスで出会う、同じ学部・同じ学科の友人たちと  
ひと足早く、「入学前」に楽しくコミュニケーション！  
(2008年1月中旬からサービス開始予定です)



### 「友達をつくる」ってどんな機能？

「友達をつくる」は、mixiやモバゲータウンなどと同じ機能を持ち、4月に入学する友達と一足先にコミュニケーションすることができます。自己紹介を書いたり、自分の日記をブログに書いたりすることはもちろん、お友達をつくったり、コミュニティで同じ趣味の人と会話をしたり・・・など色いろな機能が盛りだくさんです。積極的に使ってください。

この機能は、皆さんと同じ「入学前教育」を利用している学生、大学の先生など、大学関係者しかアクセスできないサイトなので、安心して利用できます。

○ネットワーク機能  
ネットワークとは友達のこと。気になる友達を見つけたら「ネットワーク」でつながろう！

○ブログ機能  
毎日の出来事や学習の悩みをブログ形式で簡単に書くことができます。

○公開機能  
自分の書いたブログを「誰に見せられるか？」を簡単に設定できます。

○コミュニティ  
「OOが好き」などお気に入りのコミュを見つけよう！  
どんどん情報交換しよう！

## SNS 解決方法3

### 誹謗中傷の処理方法



#### ・懸念する状況が起きた場合の対応ルール策定

UPされた内容(通報機能の報告等)について  
危険度をランク付け

明らかなもの:

事業者管理者が削除(学校より委任)→学校へ報告

そうでないもの:

事業者より相談→学校判断→事業者削除

#### ・新しいコミュニティが登録された場合一定期間状況監視

# SNS 解決方法4

## 炎上(荒れる・崩壊)をどう防ぐか



- ・生徒と大学関係者全員を事前に一括登録  
関係者以外の生徒の招待機能を停止  
⇒ **プライベート空間による安心感**
- ・サービス開始時は匿名ではなく、本名で運用開始  
⇒ 自分の発言に責任をもたせ**抑制効果**を期待
- ・SNS内に利用上の注意(ネットリテラシ)を掲載
- ・学校の真摯な対応による**荒れない雰囲気作り**
- ・常にSNSを監視している雰囲気作り
- ・個人攻撃を認識した時は本人へ忠告を配信

## 生徒への掲示(例) ~ネットリテラシ~

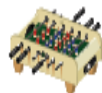


### 「友達をつくる」を楽しく利用するための3つのポイント

#### ✓ **自己紹介を書こう!**

自分のアピールポイントや趣味など自分情報を発信してみんなに自分を知ってもらおう!

同じ趣味や気のあう友人と出会えるかも?



#### ✓ **積極的に参加しよう!**

どんな大学生活が待っているかドキドキしているのはみんな同じです。

入学後の生活を楽しむために恥ずかしがらずにどんどんコミュニティに参加しましょう。

学習以外の書き込みもOK!

#### ✓ **書き込みは思いやり**

Webサイトのやりとりは、思いがけず相手を傷つけてしまうことがあります。

書き込みをするときは読む人のことを考えて!

また、自分や友人の電話番号や住所といった個人情報を書き込まないように注意しましょう。

# 3-4. SNS 運営方法1

## サービス開始時に大学側で用意したコミュニティ

No	コミュニティ名	初期登録者	公開レベル	参加条件	招待	内容						
1	機械工学科へようこそ	当学科入学予定者全員 当学科関連職員	全公開	誰でも	参加者	学科内のコミュニケーション学科内での連絡						
2	電気電子情報工学科へようこそ											
3	情報ネット・メディア工学科へようこそ											
4	建築学科へようこそ											
5	社会環境システム学科へようこそ											
6	物質生命科学科へようこそ											
7	(準備前教育)英語の部屋	入学予定者全員 学習学科別関連職員				全公開	誰でも	参加者	入学前学習に関するコミュニティ。 他にも教員の考えや日常生活を 記述していただき親しみを感じてもらおう。			
8	(準備前教育)数学の部屋											
9	何でも相談室	SNS登録者全員							全公開	誰でも	参加者	大学のこと。パソコンのこと。などを 聞きたいこと聞きたいときに。
10	友達をつくらう											

# SNS 運営方法2

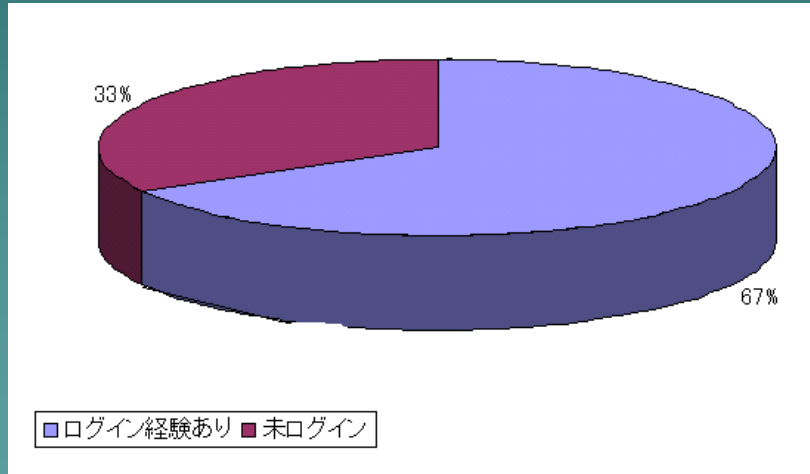
- ◆ 学習フォローコミュニティ(準備前教育の部屋)  
⇒英語・数学の教員が主対応
- ◆ 生活フォローコミュニティ(なんでも相談室の部屋)  
⇒教務課・学生課・学生支援室・工学部庶務課が主対応
- ◆ 学生同士のコミュニティ(友達づくりの部屋)  
教務課・工学部庶務課が主対応
- ◆ 学科のコミュニティ(学科教育の部屋)  
各学科長が主対応(6学科)

※工学部長と工学部庶務課(リーダー)はすべて登録

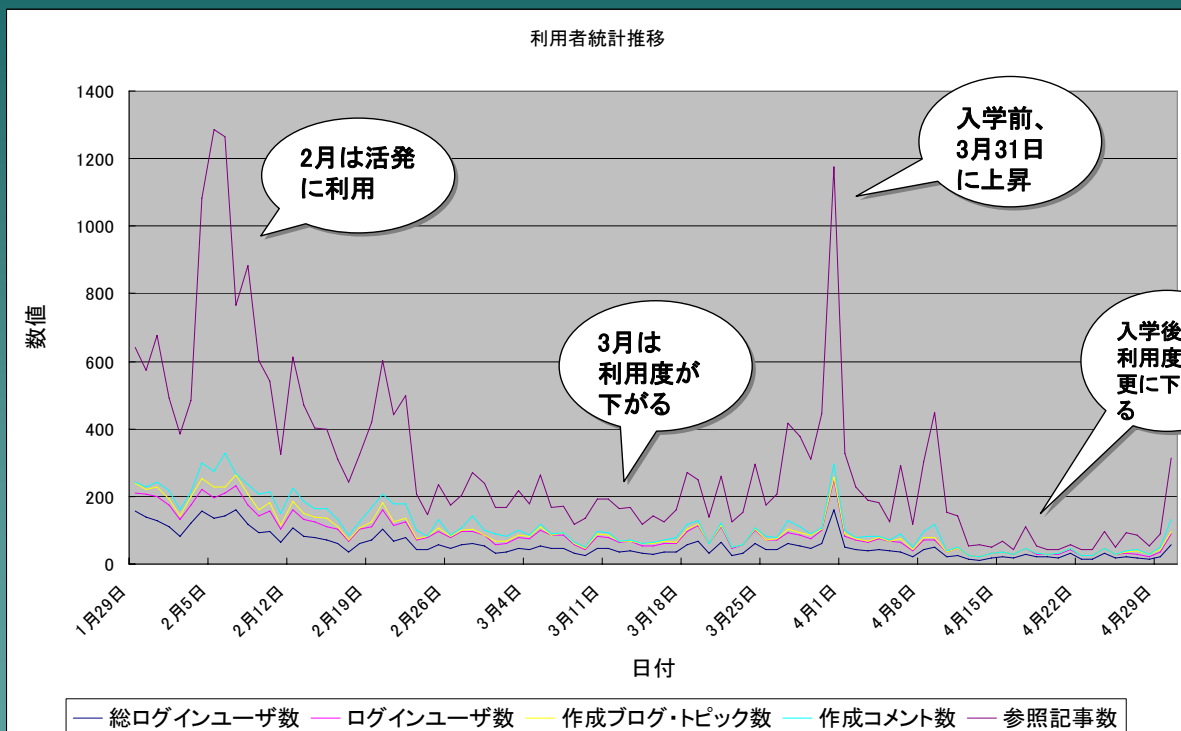


# 3-5. SNSの利用状況1

- ・全体の67%の生徒が利用
- ・その内、約8割の生徒が3月にログイン



# SNSの利用状況2



# SNSの利用状況3

## コミュニティ/学生のプロフィール(ブログ含) アクセスランキング ベスト10

順位	アクセス数	記事件数	コミュニティ名/USER_ID	種別	備考
1	1,153	92	何でも相談室	コミュニティ	大学への質問など
2	1,105	80	友達をつくろう	コミュニティ	導入時に案内、被アクセス数上位者が書き込み
3	745	458	USER01	学生	メッセージ、ブログも多い
4	424	75	モンスターハンター集会所	コミュニティ	学生作成のコミュニティ。参加者8人。1つのトピックに20件くらいのコメントが付いている傾向
5	391	135	USER02	学生	
6	383	208	USER03	学生	
7	349	575	USER04	学生	
8	338	146	USER05	学生	
9	311	66	USER06	学生	
10	310	0	情報ネット・メディア工学科へようこそ	コミュニティ	

# SNSの利用状況4

## ● 「何でも相談室」の活性化

### 大学生生活等について

- － 購入するパソコンについてなど用意するものへの質問
- － オリエンテーションなど入学後の予定に関する質問
- － 入学後の勉強についての質問

### e-Learningについて

- － 入学前学習に関する質問
- － e-Learningシステムに関する質問

## ● 学生によるコミュニティの利用

- － 音楽・ゲームなど自分たちの趣味について
- － メッセージ・ブログも掲載

学生が立ち上げたコミュニティ(ブログ含む) 約300件

# 3-6. 入学前準備教育QA状況



SNSにより、学習に関する疑問や質問を共有し、生徒間で問題解決することで、入学前準備教育のQA対応件数を33%程度削減することができた。

前年度の状況:

本年度の状況:

2007年12月15日～2008年4月30日

対応状況	質問数
電話対応	25
メールでの対応	-
学習の質問ページでの対応	134
合計	159

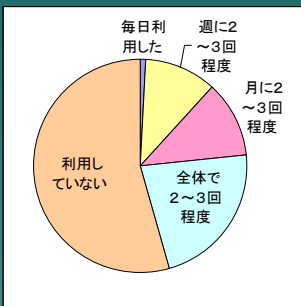
対応状況	質問数
電話対応	42
メールでの対応	22
学習の質問ページでの対応	43
合計	107

QA内容	電話	メール	学習ページ	計
事務処理関連の質問	1	0	0	1
ログイン関連の質問	9	8	0	17
PC環境・操作	9	3	3	15
NavigStage操作 (e-Learningに関する操作)	6	0	7	13
JAVA	7	9	15	31
教材の内容	0	1	8	9
紙教材	4	0	0	4
メール	2	0	0	2
その他	4	1	10	15
計	42	22	43	107

# 3-7. SNSアンケート結果



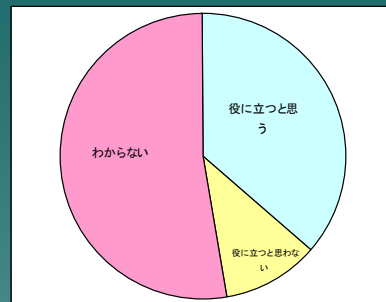
## 1. 利用頻度



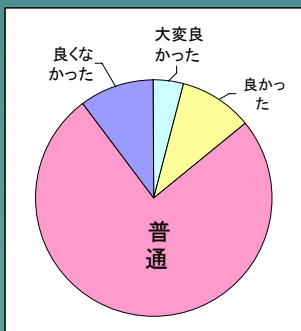
## 2. 利用したサービス上位5項目

- ・プロフィールを見る (自己紹介)
- ・新着
- ・メッセージを送る
- ・ブログを書く
- ・コミュニティ

## 3. 入学後の友達作りや不安解消に役立つか



## 4. 感想



## 5. 学生の意見・要望など

- ・大学に対する相談や質問があったのがよかった。
- ・人見知りの人は話しかけやすいと思う
- ・顔こそわからないものの、不特定多数の人と交流が持てて、人付き合いにも自信がもてたような気がしました。
- ・文字で意見交換するので、緊張しなかった。
- ・なにもわからないまま大学へ入学するよりも少しでも友達ができるしなじみやすかった。
- ・文章を通して、相手に自分の思いを伝えるというのも、ある意味で文章力のトレーニングになったような気がしました。
- ・書き込んだ事はなかったが質問等を覗かせてもらうことはあったのでそれなりに役立ちました。
- ・学業・私情関係なく情報の交換が出来たため、楽しんで利用することが出来ました。

## 3-8. SNSの効果

### ◆ 入学前準備教育に対する効果

- － 他の生徒との繋がりを持つことで1人ではないという気持ちが入学前準備教育のモチベーションをUP
- － 夜間のサポート対応時間外に、生徒間で問題解決することで、学習を止めない。モチベーション維持。
- － 生徒間でのQ&A情報共有によるQ&A件数の削減

### ◆ 大学入学に向けての不安解消に貢献

- － 大学の授業内容、入学後の学生生活や人間関係に対する疑問や不安を共有
- － 自身は発言しなくても、SNS上で他の生徒の発言を見ることで同様な不安をもつ生徒がいることを知り、焦りを軽減。
- － 大学関係者の丁寧かつ迅速なコメントで安心感を得る。

## 3-9. SNSのまとめ

- ◆ 生徒同士が自発的にUPLしたことは評価
- ◆ 「炎上」(荒れる・崩壊)はなかった
  - ・ 生徒へのネチケツなどの周知徹底
  - ・ 荒れづらい雰囲気作り
- ◆ Q&A対応件数の削減
- ◆ 学習意欲の維持アップに貢献
- ◆ コミュニティへの直接的な参加ではないが、参照等による間接的なSNSへの参加が多く、結果として入学後の学生生活の不安解消に貢献

成功と評価

## 4-1. 総評

- ◆ e-Learningによる学習とSNSによるコミュニケーションの組み合わせは相互効果が望める。次回も必須と考えている。
- ◆ 学習サポートを含めフォローアップが出来たことは、2年目の成果として挙げられる。
- ◆ 入学前にWeb上で大学と生徒間のコミュニケーションが取れ、情報共有・モチベーション・不安解消に効果があった。
- ◆ 生徒間で問題解決が行える。仲間意識も高まる。
- ◆ 紙面郵送の添削による入学前準備教育との違い
  - ・リアルタイムに進捗状況がわかる
  - ・学習者へ良いタイミングで激励メールを配信
  - ・学習していない生徒へダイレクトメールを発信
  - ・学習率もUP
  - ・入学後の1ヶ月間大学で復習ができる
  - ・入学後のLMS (Learning Management system) へスムーズに導入できた

## 4-2. 今後の課題

### e-Learningによる学習

- ◆ 学習意欲がわからない対象者に対するやる気の向上
  - ・昨年も達成しない対象者がいた
- ◆ SNSでフォローアップとQ & Aも充実
- ◆ ブレンド教育のPR方法
- ◆ 対象者へ学習の達成を促す説明を明確にする
  - ・基礎スキルの向上
  - ・授業がスムーズに受けられる

### SNSによる友達づくり

- ◆ 在学生の参加をどうするか
- ◆ 運用中にアンケートを実施し、生徒の状況に応じた柔軟な運営
- ◆ SNSを利用した生徒の在学追跡調査